

授業概要

本講義では、心理学実験に関する一般的知識とレポートの作成方法について講義を行った後、鏡映描写、短期記憶、推論過程の4種目について、実験を行い、レポートを作成する。受講生は毎回、数名程度の小グループに分かれて実験実習に取り組む。1つの実験種目につき3週から4週かけて、実験の実施、データの記録・整理、データ分析を行う。そして、実験結果に基づき、各自が実験レポートを作成する。

授業計画

| | |
|------|--------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 講義：心理学における実験とは？ |
| 第3回 | 講義：心理学実験におけるレポート作成 |
| 第4回 | 鏡映描写①実験実習 |
| 第5回 | 鏡映描写②データの分析 |
| 第6回 | 鏡映描写③レポートの作成 |
| 第7回 | 短期記憶①実験実習 |
| 第8回 | 短期記憶②データの分析 |
| 第9回 | 短期記憶③レポートの書き方 |
| 第10回 | 短期記憶④レポート作成の指導 |
| 第11回 | 推論過程①実験実習 |
| 第12回 | 推論過程②データ分析とレポート作成 |
| 第13回 | 推論過程③レポートの書き方 |
| 第14回 | 推論過程④レポート作成の指導 |
| 第15回 | 講義：総括 |
| 第16回 | 最終レポート受領 |

※進行状況によって実験内容が変更することもある

到達目標

実験レポートの作成を通し、実験結果を科学的事実として報告するための論文の書き方を理解することが大目標である。この目標を達成するために、実験レポートの文章作成や心理学において必要とされる図表の作成、文献の引用方法と引用文献リストの作成方法に関する基本的な理解を小目標とする。

履修上の注意

- 本講義の受講にあたっては、「心理学実験基礎」を履修し、単位を取得していることを前提とする。
- 各種実験ごとにレポートを作成し、提出する。提出期限は実験終了後、目安として2週間以内とする（担当教員によって異なる場合もある）。1種目でもレポートが未提出となると、評価の対象外となり単位が取得できない。
- 遅刻をすると全体の進行状況に悪影響を及ぼすため、原則として遅刻は許されない。遅刻理由によっては、評価の対象外となり単位が取得できない可能性もあるため、注意すること。
- 実験の実施やデータ解析に関する方法、実験レポートに記述すべき内容などは、実験種目によって異なることがあるため、各種目の担当教員からの指示に十分な注意を払うこと。
- 本講義は春期と秋期に分かれる。各学期の人数の調整は指導の関係上、担当教員が均等に振り分ける。

予習・復習

• 各種目は、2回、または3回で構成されている。確実に復習をしておかないと、次の回がスムーズに進めることができなくなる。また、レポートを書くことに困難が生じる。そのため、復習は必須である。

評価方法

- 各レポートの評価を総合して評価を行う。

テキスト

- 特にテキストは指定しないが、「心理学実験基礎」で用いた資料等は手元にあることを前提とする。